

第8章 佐伯区

1 キャッチフレーズ

コラボシティ・佐伯区

[趣旨]

区民と行政がそれぞれの役割と責任を認識し、協働して、区の将来像の実現に向けて取り組むことを宣言するとともに、「コラボレーション」と「シティ」を組み合わせた造語「コラボシティ」を用いることにより、区民と行政の協働の意思を表現した。

2 将来像

- (1) 海・川・山、いで湯や歴史・文化を生かしたまち
- (2) 安全・安心な暮らしを支え合うまち
- (3) 人が集い交流する、うるおいのある元気なまち

3 現状と課題

- 佐伯区は、広島市西部に位置し、南側の市街地においては、JR山陽本線や広島電鉄宮島線、一般国道2号などの交通機能が整い、商業、業務などの多様な都市機能が集積している。また、八幡川や岡の下川が広島湾に注ぎ、北西部には大峯山や冠山（湯来冠山）、^{てんじょうざん}天上山等の山々が連なるなど恵まれた自然環境を有するとともに、湯来温泉や湯の山温泉、造幣局の桜などの観光資源、歴史・文化資源に恵まれた地域である。さらに、区内では、商店街や地域住民が主体となったイベント、祭りなどの活動が活発に行われている。こうした多様な都市機能や地域資源を生かすとともに、商店街等の活動の活性化を図り、多くの人が集い交流する活力あるまちづくりを進める必要がある。
- 高齢化の進展やマンション居住世帯の増加などにより、町内会・自治会の加入率が低下し、地域におけるコミュニティ意識の希薄化が課題となっている。このため、地域コミュニティの活性化を図り、人が住み、憩うベッドタウンとして、区民が安全・安心に暮らせるまちづくりを進める必要がある。
- 農山村地域では、農林業の担い手不足や過疎化の進行により、農地・森林の保全や地域コミュニティ活動の継続が困難になるなど、様々な地域課題が生じている。このため、多様な担い手の育成・支援や農業生産基盤の整備などにより農林業の振興を図るとともに、都市住民との交流促進や定住人口の増加を図る取組など総合的な過疎対策に取り組む必要がある。

4 将来像を実現するための施策

(1) 海・川・山、いで湯や歴史・文化を生かしたまち

ア 施策展開の基本的方向

自然・温泉・歴史・文化など豊富な地域資源を活用し、区民と行政の協働により、区民の「ふるさと意識」が一層広がるようなまちづくりを進める。

イ 魅力向上プロジェクト

お宝ネットワーク事業

区民が佐伯区の魅力を再認識し、誇りに思う、やすらぎとうるおいのあるまちを目指し、自然や歴史・文化などの地域資源と公共施設などを結ぶプロムナードづくりを進めるとともに、既存の散歩道・ジョギングコースを活用した地域資源のネットワーク化を図る。また、新たな魅力ある地域資源の発掘を行うとともに、これら地域資源の保存・活用と継承を図る。

ウ 主要施策

- 自然環境と調和した河川整備や緑地の維持管理活動の促進など自然環境保全の取組の推進
- ボランティアによる憩の森やハイキングコースの管理の推進とその利用促進など緑にふれることのできる環境づくりの推進
- 臨海部における港湾緑地の計画的な整備の促進
- 景観誘導の推進や景観資源の保存・活用など良好な景観の形成
- 伝統芸能や祭り等の継承、歴史資料や文化財の保存・活用など歴史・文化を生かしたまちづくりの推進
- 区民の芸術文化活動に対する支援や優れた芸術文化の鑑賞機会の提供、親しみやすく、利用しやすい開かれた文化施設づくりの推進など豊かな文化環境の創造

(2) 安全・安心な暮らしを支え合うまち

ア 施策展開の基本的方向

区民と行政が協働して、子ども・高齢者の見守り体制の確保や防災・防犯力の強化、地球温暖化などの環境問題に取り組むとともに、地域コミュニティの活性化や住民同士の交流促進を図ることにより、安全・安心な暮らしを支え合うまちづくりを進める。

イ 魅力向上プロジェクト

(7) わがまち自慢づくり事業

公民館等を拠点とした地域住民による自主的なまちづくり活動に対する支援やまちづくりリーダーの育成などにより、区民が自ら考えまちづくりに取り組む環境づくりを行う。また、清掃やリサイクル、防災・防犯、交通安全などの地域活動を促進することにより、わがまち自慢づくりを進める。

(イ) まごころネットワーク事業

少子化・高齢化が進む中、区民が互いに支え合う地域をつくるため、保健・医療・福祉サービスの充実を図るとともに、子育てに対する知恵を共有できるふれあいの場づくりや世代間交流などを通じて、未来を担う子どもや高齢者への思いやりの心を醸成する。

ウ 主要施策

- 子どもの権利の尊重に向けた取組の推進や子どもと親の健康づくり、子どもの遊び場と居場所づくりの推進など子どもが健やかに育つ社会の形成
- 社会全体で子どもを育てる環境づくりや子育てと仕事の調和に向けた支援の充実、子育て家庭に対する支援の充実など安心して子どもを生み育てることのできる環境の整備
- 高齢者の多様な社会参加の促進や介護予防の推進、高齢者の在宅生活の支援など高齢者福祉の充実
- *バリアフリー化の推進や障害者の生活支援の充実、障害者の社会参加活動の促進など障害者福祉の充実
- 区民の健康づくりの推進、適切な医療提供体制の確保と良好な生活衛生環境の確保
- 地域福祉センター・保健センター・福祉事務所の合築施設の整備
- 防災訓練等の実施や自主防災体制の整備、災害時要援護者に対する支援体制等の整備、急傾斜地崩壊対策事業や河川改修、道路施設の防災対策、五日市地区の*耐震強化岸壁の整備や下水道管きよ・ポンプ場の増強等の浸水対策など災害に強いまちづくりの推進
- 区民・事業者の防犯活動への参加促進や子どもの見守り活動の実施、街路灯の整備や通学路の点検・整備、交通安全対策の推進など安全で安心な地域社会の形成
- *コミュニティリーダーの知識・技能の向上や*地域ポータルサイト「こむねっとひろしま」の提供、地域活動団体の交流促進など地域コミュニティ活動の振興
- *公益信託広島市まちづくり活動支援基金の運用や都市計画の専門家等の派遣などによる区民のまちづくり活動の促進
- まちづくり活動の成果を小・中学校の「*総合的な学習の時間」に生かすなど社会教育と学校教育の連携、生涯学習関連施設のまちづくり活動やボランティア活動への活用促進
- 事業活動や家庭生活における省エネルギー等の取組の促進、自動車使用の抑制に向けた取組の促進など地球温暖化・エネルギー対策の推進
- ごみの減量とリサイクルの推進、ごみの不法投棄防止対策などごみのないきれいなまちづくりの推進

(3) 人が集い交流する、うるおいのある元気なまち

ア 施策展開の基本的方向

イベント、祭りなどの地域活動や自然、観光などの多様な資源、市街地の都市機能を生かし、区の内外から多くの人が集い交流する、うるおいのある元気なまちづくりを進める。

イ 魅力向上プロジェクト

生き生き交流事業

遊休農地を活用した都市住民が農業体験できるふれあい農園づくりや親水施設、野鳥園、登山道などを活用した自然観察・レクリエーションの実施、*ICTを活用した観光資源をはじめとする魅力的な地域情報発信の取組などにより、区民の交流促進とまちの活性化を図る。

ウ 主要施策

- 一定の都市機能の集積と交通結節機能がある五日市地区の機能強化と*アクセシビリティの向上、西風新都の都市づくりの推進
- 新交通西風新都線整備の具体化やJR山陽本線の輸送改善の促進、わかりやすく利便性の高いバスネットワークの構築促進など公共交通機関の機能強化
- 安全で快適な歩行者・自転車空間の確保と徒歩、自転車利用の促進、各種広報媒体を活用した啓発活動や乗合タクシーの導入支援などによる公共交通機関の利用促進
- 商店街の回遊性の向上やにぎわいの創出、地域コミュニティ活性化に向けた取組と連携した商店街づくりの促進
- 経済団体や観光関連事業者等と連携した歴史・文化、自然などの観光資源を生かした魅力ある観光ルートの形成と宣伝・誘客活動の推進、湯来町での温泉や農業、カヌー、酪農等を活用した交流体験型観光の振興
- 農地・森林の保全と農林業の振興、生活環境の整備とコミュニティの活性化、交流・定住の促進など過疎化が進む地域における総合的な対策の推進
- 区民スポーツ大会の開催やスポーツセンターの利用促進など区民のスポーツ・レクリエーション活動の振興
- *広島広域都市圏の形成促進など周辺自治体等との連携強化

5 住民に身近な地区別まちづくりビジョン

(1) 五日市地区

ア 地区の特性

- JR山陽本線や広島電鉄宮島線、一般国道2号など、東西に広域的な交通網が整備されており、宮島街道、駅前線（五日市駅北）、コイン通りなどの幹線道路沿道では商業・業務地が、その他の地域では主として住宅地が

形成されている。

- マンション等の共同住宅の立地などにより、人口の増加が続いている。
- 八幡川や海老山などの自然資源のほかに、造幣局の桜、野鳥が飛来する人工干潟などの地域資源がある。

イ まちづくりの方向

(ア) 緑を生かしたうるおいのある水辺空間づくりを進める。

(取組内容)

水鳥が飛来する八幡川河口における自然環境の保全に取り組むとともに、臨海部における親水緑地や野鳥園など港湾緑地の整備と協調し、市民に開かれた多様なレクリエーションの場として、うるおいのある水辺空間づくりを進める。

(イ) 広島で一番住みやすい地区の実現を目指したまちづくりを進める。

(取組内容)

地域の様々な課題を住民同士の協力により解決するため、地域活動への住民の参加の呼びかけなどによりコミュニティの活性化に取り組み、広島で一番住みやすい地区の実現を目指したまちづくりを進める。

(ロ) 区の玄関にふさわしいにぎわいのある交流拠点づくりを進める。

(取組内容)

五日市駅前、コイン通り、宮島街道など内外から多くの人が集う場所を中心に、商店街の取組と連携した地域コミュニティの活性化に取り組むとともに、交通結節機能を生かし、佐伯区の玄関にふさわしいにぎわいのある交流拠点づくりを進める。

(2) 湯来地区

ア 地区の特性

- 大峯山、冠山(湯来冠山)、東郷山などの山々に囲まれ、水内川や八幡川の流域は農業振興地域に指定されており、八幡川流域には、農地のほか、団地開発による住宅地などが形成されている。
- 人口の減少が続いており、農山村地域では少子化・高齢化、過疎化が進んでいる。
- 多くの人を訪れる湯来温泉や湯の山温泉をはじめ、県の名勝である石ヶ谷峡などの豊かな自然資源、水内神楽などの歴史・文化資源がある。

イ まちづくりの方向

(ア) 快適で住みよいふるさとづくりを進める。

(取組内容)

子どもの遊び場づくりや農業・農村体験の場の提供による都市住民との交流、若者の定住促進、生活環境の改善などに取り組むことにより、子どもから高齢者まで安心して住み続けることのできるまちづくりを進

める。

(4) 豊富な資源を生かした魅力ある観光のまちづくりを進める。

(取組内容)

湯来の自然や歴史、特産品などを活用し、農業、カヌー、酪農等の体験型観光プログラムの開発やその充実などに取り組み、魅力ある観光のまちづくりを進める。

(5) 田園文化を生かし、元気と活力あふれるまちづくりを進める。

(取組内容)

食育や地産地消などの「食」に関する活動、特産品を活用した湯来のイメージアップと誘客に向けた取組を通じて、農山村の活性化と都市住民との交流を促進し、元気と活力あふれるまちづくりを進める。

(3) 河内地区

ア 地区の特性

- 八幡川周辺の平地部では、農地が混在した住宅地や商業地、工業地が、丘陵部には二つの団地開発により住宅地が形成されている。
- 住宅団地の開発などによる人口増加の時期があったが、近年は減少している。
- 八幡川、次郎五郎の滝、窓籠湖(魚切ダム)などの自然資源や古代遺跡、神社仏閣などの歴史・文化資源がある。

イ まちづくりの方向

(7) 歴史・文化・自然を守り、はぐくむふるさとづくりを進める。

(取組内容)

伝統芸能、祭り、遊びなどの継承、歴史・文化資源の保存・活用、良好な景観を形成する自然環境の保全活動を通じて、「河内らしさ」を後世に伝えることにより、世代や地域を越えた人のつながりを築き、住み続けることのできるふるさとづくりを進める。

(4) 川でつながる連携と支え合いのまちづくりを進める。

(取組内容)

八幡川(河内)とその支流である城六川(彩が丘)、野登呂川(藤の木)のつながりを生かした水辺でのイベントの開催や川を身近に感じることでできる環境づくりなどにより、これら地域の連携と支え合いのまちづくりを進める。

(5) 三つの地域が交流する活気あるまちづくりを進める。

(取組内容)

河内地区を構成する河内、彩が丘、藤の木の地域間の交流を深めながら、子どもや高齢者の見守り体制の確保、防災・防犯力の強化など地域が抱える様々な課題に対し、地区全体で取り組むことにより、人・地域・

地区全体が活気あるまちづくりを進める。

(4) 石内・八幡・観音地区

ア 地区の特性

- 岡の下川や八幡川、石内川周辺の平地部は主として農地が混在した住宅地であり、県道五日市筒賀線や石内バイパスなどの幹線道路沿道では商業・業務地が、丘陵部では団地開発により住宅地が形成されている。
- 西風新都内に造成された住宅団地での人口増加はあったが、造成後20年以上経過した団地での減少が進んでおり、人口は横ばいである。
- 植物公園や神原のシダレザクラなどの自然資源、古代遺跡、城跡などの歴史・文化資源がある。

イ まちづくりの方向

(ア) 自然と調和した豊かな未来を創造するまちづくりを進める。

(取組内容)

恵まれた自然環境や田園風景の保全を図るとともに、遊休農地を活用したちびっこ農園づくりやウォーキングマップの作成などにより、自然と調和した豊かな未来を創造するまちづくりを進める。

(イ) 花や緑に囲まれたうるおいのあるまちづくりを進める。

(取組内容)

地区内にある植物公園を緑の拠点として、緑化技術や知識を学びながら、庭先緑化活動など地域住民が中心となった緑化の取組の拡充を図り、花や緑に囲まれたうるおいのあるまちづくりを進める。

(ウ) 人のぬくもりを感じることのできるまちづくりを進める。

(取組内容)

地域の様々な生活課題の解決に向けて、町内会活動やサークル活動などのつながりを活用しながら、人のぬくもりを感じることのできるまちづくりを進める。

6 地区区分図

